



業況DIは1.0ポイント低下。一般機械・輸送用機械が大幅に低下

～令和6年1－3月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和6年1－3月期の調査結果ご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況DIは低下。前期3ヵ月後見込より僅かに上昇 ～
総合の業況DIは、前期比1.0ポイント低下の▲26.3となりました。前期の3ヵ月後見込（▲26.9）より0.6ポイントの上昇となりました。

また、今後については3ヵ月後が現在比1.3ポイント上昇の▲25.0（前期の半年後見込▲27.8）、半年後が同3.5ポイント上昇の▲22.8の見込と、厳しい状態ながらも、いずれも上昇を見込んでいます。

2. 業種別特徴 ～ 業況DI、製造業が前期比6.7ポイント低下 ～

製造業の業況DIは前期比6.7ポイント低下の▲31.6で、前期見込（▲24.4）より低下しました。中分類で見ると、電気機械（同3.6ポイント上昇の▲22.9）は上昇した一方で、一般機械（同11.0ポイント低下の▲29.5）と輸送用機械（同11.8ポイント低下の▲30.0）は大きく低下しました。

建設業の業況DIは同1.6ポイント低下の▲2.4となり、前期見込（▲6.8）より上回りました。

商業・サービス業の業況DIは同2.6ポイント上昇の▲28.4で、前期見込（▲33.1）より上昇しました。内訳を見ると、卸売業が同2.3ポイント低下の▲34.3、小売業が同1.6ポイント上昇の▲41.4、飲食店が同9.2ポイント上昇の0.0、サービス業が同4.8ポイント上昇の▲16.4となりました。飲食店は前期に続き大幅上昇したほか、小売業、サービス業も上昇した一方、卸売業は3期連続で低下しました。

また、3ヵ月後は製造業が現在比6.0ポイント上昇の▲25.6（前期の半年後見込▲23.4）、建設業が同8.1ポイント低下の▲10.5（同▲17.9）、商業・サービス業が同0.3ポイント上昇の▲28.1（同▲33.0）、半年後は製造業が同12.6ポイント上昇の▲19.0、建設業が同15.5ポイント低下の▲17.9、商業・サービス業が同2.0ポイント上昇の▲26.4となるなど、今後の3ヵ月後、半年後の見通しでは、製造業、商業・サービス業はいずれも上昇の見通しである一方、建設業は低下を見込んでいます。

3. 規模別*特徴 ～ 中規模企業・小規模企業いずれのDIも低下 ～

中規模企業の業況DIは前期比1.5ポイント低下の▲21.5、小規模企業のDIは同0.9ポイント低下の▲32.2となりました。売上DIは中規模企業が同16.6ポイント低下の▲12.1、小規模企業が同11.2ポイント低下の▲30.9、採算DIは中規模企業が同7.1ポイント低下の▲25.6、小規模企業が同2.5ポイント低下の▲36.0となりました。中規模企業・小規模企業の業況・売上・採算DIはいずれも低下しました。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、5地区で低下。3ヵ月後、半年後見込は6地区で上昇 ～

前期より業況DIが上昇したのは3地区（川崎、藤沢、相模原）、低下したのは5地区（横浜、横須賀、平塚、厚木、足柄上・西湘）でした。特に変化の大きかったのは平塚地区で前期比11.6ポイント低下の▲32.4となりました。

一方、3ヵ月後は現在比で6地区（横浜、横須賀、藤沢、相模原、厚木、足柄上・西湘）が現在より上昇すると見込んでいます。前期の半年後見込との比較では5地区（川崎、横須賀、藤沢、相模原、足柄上・西湘）が上回り、2地区（横浜、平塚）が低下、1地区（厚木）は変わらないと見込んでいます。

半年後では現在比で6地区（横浜、横須賀、平塚、藤沢、厚木、足柄上・西湘）で上昇、2地区（川崎、相模原）で低下すると見込んでいます。

地区	今期業況DI（前期比／前期3ヵ月後見込）	増減	同3ヵ月後見込（同半年後見込）	増減	同半年後見込
横浜	▲29.6（1.9ポイント低下／▲28.6）	↑	▲27.2（▲25.2）	↑	▲24.8
川崎	▲20.6（4.6ポイント上昇／▲31.2）	↓	▲28.7（▲39.8）	↓	▲26.7
横須賀	▲27.8（2.3ポイント低下／▲25.3）	↑	▲24.7（▲28.3）	↑	▲22.5
平塚	▲32.4（11.6ポイント低下／▲22.6）	—	▲32.4（▲27.9）	↑	▲30.4
藤沢	▲31.4（1.6ポイント上昇／▲29.3）	↑	▲22.5（▲28.3）	↑	▲20.2
相模原	▲26.9（4.7ポイント上昇／▲28.9）	↑	▲25.5（▲26.3）	↓	▲28.0
厚木	▲23.8（0.7ポイント低下／▲24.0）	↑	▲23.1（▲23.1）	↑	▲17.5
足柄上・西湘	▲13.7（1.3ポイント低下／▲22.3）	↑	▲11.8（▲25.2）	↑	▲8.8

※ 増減は今期業況DI（斜体）と同3ヵ月後見込、同半年後見込との比較。

※ — は、同数字のため、変化なし。

5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～総合の経営状況では「売上」が再び低下するなど、「仕入価格」を除く全ての指標で低下～
経営状況では、前回上昇した「売上」が総合で前期比13.6ポイント低下の▲20.4となりました。業種別では、製造業が同16.1ポイント低下の▲24.6、サービス業が同13.1ポイント低下の▲21.0となりました。

また「売上」を含め「採算」「引き合い／客数」など、経営状況の総合では「仕入価格」を除く全ての指標で前回より低下する結果となりました。「仕入価格」も▲62.4（同6.4ポイント上昇）と依然として厳しい状況にあり、引き続き物価高騰の影響が続いています。

コメントでは、「原材料・光熱費等の値上がりが続き、利益確保が難しい。」「売上は物価高騰の影響で、コロナ時より悪い。お金を使わなくなっている。」などの声が上がっていました。

【調査要領】

調査時期：令和6年2月 調査対象：県内中小企業2,000社 回答数：1,002社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部企画広報課 木村

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: kikaku@kipc.or.jp

令和6年1-3月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは1.0ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和6年1-3月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和6年2月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,002社（50.1%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	343	62.4%
建設業	250	125	50.0%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	534	44.5%
合計	2,000	1,002	50.1%

2. 調査結果

（1）総合

	令和5年			令和6年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲24.6	▲25.6	▲25.3	▲26.3	▲25.0	▲22.8
売上DI	▲8.7	▲14.1	▲6.8	▲20.4	—	—
採算DI	▲24.8	▲29.7	▲25.5	▲30.2	—	—

総合の業況DIは、前期比1.0ポイント低下の▲26.3となった。

経営状況では、売上DIは前期比13.6ポイント低下の▲20.4、また、採算DIは同4.7ポイント低下の▲30.2となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比1.3ポイント上昇の▲25.0、半年後は同3.5ポイント上昇の▲22.8を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和5年			令和6年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲28.7	▲27.1	▲24.9	▲31.6	▲25.6	▲19.0
売上DI	▲15.2	▲15.0	▲8.5	▲24.6	—	—
採算DI	▲28.1	▲27.6	▲21.9	▲28.9	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比6.7ポイント低下の▲31.6となった。

経営状況では、売上DIは、前期比16.1ポイント低下の▲24.6、採算DIは同7.0ポイント低下の▲28.9となった。

「物流費、原材料、大豆価格、人件費の全てが高騰。人手不足も不安となります。」「原材料・光熱費等の値上がりが続き、利益確保が難しい。」「発注件数が減っている。仕入（材料）価格は安くなっている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比6.0ポイント上昇の▲25.6、半年後は同12.6ポイント上昇の▲19.0を見込んでおり、「関連業界全体の動きは鈍い状況だが、特定の顧客から大口受注があり、持ち直した。半導体業界の本格回復は、夏以降と見込んでいる。」「本格的な業績の回復には、3か月～6か月程度、時間を要する見込み。」「原材料の値上げや、光熱費等の高騰が続き、利益確保が難しい。取引先からの依頼も継続性がなくなっている。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和5年			令和6年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
一般機械	▲31.4	▲25.6	▲18.5	▲29.5	▲20.7	▲20.0
電気機械	▲28.6	▲37.8	▲26.5	▲22.9	▲19.3	▲7.2
輸送用機械	▲25.9	▲14.5	▲18.2	▲30.0	▲33.3	▲25.5
その他	▲28.0	▲26.8	▲31.7	▲39.7	▲30.3	▲23.9

中分類で見ると、一般機械は前期比11.0ポイント低下の▲29.5、電気機械は同3.6ポイント上昇の▲22.9、輸送用機械は同11.8ポイント低下の▲30.0となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比8.8ポイント上昇の▲20.7、電気機械が同3.6ポイント上昇の▲19.3、輸送用機械は同3.3ポイント低下の▲33.3、半年後は一般機械が同9.5ポイント上昇の▲20.0、電気機械が同15.7ポイント上昇の▲7.2、輸送用機械は同4.5ポイント上昇の▲25.5を見込んでいる。

<建設業>

	令和5年			令和6年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲6.6	▲8.3	▲0.8	▲2.4	▲10.5	▲17.9
売上DI	▲15.0	▲16.7	3.3	▲6.4	—	—
採算DI	▲21.8	▲19.2	▲18.3	▲26.4	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比1.6ポイント低下の▲2.4となった。

経営状況では、売上DIは前期比9.7ポイント低下の▲6.4、採算DIは同8.1ポイント低下の▲26.4となった。

「官庁工事の受注ができていない。」「人員不足により作業効率が落ちている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比8.1ポイント低下の▲10.5、半年後は同15.5ポイント低下の▲17.9を見込んでおり、「人手不足で工事対応が厳しくなる。工事の遅れは、資金繰りに影響するので、心配である。」「令和6年4月からの働き方改革により休日を増やさなければいけない。実質賃金の大幅増となり生産も低くなり、会社負担が大きくなる。赤字になる要素が大きい。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	令和5年			令和6年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲26.0	▲28.4	▲31.0	▲28.4	▲28.1	▲26.4
売上DI	▲3.0	▲13.0	▲7.9	▲21.0	—	—
採算DI	▲23.3	▲33.5	▲29.4	▲32.0	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比2.6ポイント上昇の▲28.4となった。

経営状況では、売上DIは前期比13.1ポイント低下の▲21.0、採算DIは同2.6ポイント低下の▲32.0となった。「売上は物価高騰の影響で、コロナ時より悪い。お金を使わなくなっている。」「コロナが明けて少しずつ好調になりつつあります。世間様のムードも良い方向に向いていると思います。」「諸物価値上がりの中、顧客の中に節約意識が強く、平均客単価が落ちている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.3ポイント上昇の▲28.1、半年後は同2.0ポイント上昇の▲26.4を見込んでいる。「中国経済の状況が好調になれば景気が良くなっていくと思える。輸出次第です。」「去年は、タイムリーに値上げを実施できたことで、売上・利益とも良好だったが、今年は、昨年のような好調は続かないと考えている。上昇するコストにどう対応するかがポイントとなる。」「アルバイトが見つからず、営業日を減らしたり、営業時間を短くしたりで、好調に向かっていく要素が見つからない。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和5年			令和6年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
卸売業	▲23.3	▲26.1	▲32.0	▲34.3	▲34.0	▲24.8
小売業	▲35.9	▲40.8	▲43.0	▲41.4	▲38.9	▲38.6
飲食店	▲19.1	▲19.4	▲9.2	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲15.2	▲14.3	▲21.2	▲16.4	▲19.8	▲20.6

業種別では、卸売業は前期比2.3ポイント低下の▲34.3、小売業は同1.6ポイント上昇の▲41.4、飲食店は同9.2ポイント上昇の0.0、サービス業は同4.8ポイント上昇の▲16.4となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比0.3ポイント上昇の▲34.0、小売業は同2.5ポイント上昇の▲38.9、飲食店は今期と同じ0.0、サービス業は同3.4ポイント低下の▲19.8、半年後では卸売業が同9.5ポイント上昇の▲24.8、小売業は同2.8ポイント上昇の▲38.6、飲食店は今期と同じ0.0、サービス業は同4.2ポイント低下の▲20.6を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和5年			令和6年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
中規模	業況DI	▲18.8	▲21.1	▲20.0	▲21.5	▲18.5	▲16.8
	売上DI	▲5.2	▲8.3	4.5	▲12.1	—	—
	採算DI	▲25.2	▲28.7	▲18.5	▲25.6	—	—
小規模	業況DI	▲31.4	▲30.9	▲31.3	▲32.2	▲33.3	▲30.3
	売上DI	▲12.9	▲21.2	▲19.7	▲30.9	—	—
	採算DI	▲24.3	▲31.0	▲33.5	▲36.0	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比1.5ポイント低下の▲21.5、小規模企業は同0.9ポイント低下の▲32.2となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比16.6ポイント低下の▲12.1、採算DIが同7.1ポイント低下の▲25.6、小規模企業は売上DIが同11.2ポイント低下の▲30.9、採算DIが同2.5ポイント低下の▲36.0となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比3.0ポイント上昇の▲18.5、半年後が同4.7ポイント上昇の▲16.8、小規模企業は3か月後が同1.1ポイント低下の▲33.3、半年後が同1.9ポイント上昇の▲30.3を見込んでいる。

(4) 地区別特徴 (業況DI)

	令和5年			令和6年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
横浜	▲25.8	▲33.6	▲27.7	▲29.6	▲27.2	▲24.8
川崎	▲29.3	▲27.4	▲25.2	▲20.6	▲28.7	▲26.7
横須賀	▲20.2	▲16.2	▲25.5	▲27.8	▲24.7	▲22.5
平塚	▲36.4	▲27.7	▲20.8	▲32.4	▲32.4	▲30.4
藤沢	▲9.6	▲11.9	▲33.0	▲31.4	▲22.5	▲20.2
相模原	▲24.2	▲25.8	▲31.6	▲26.9	▲25.5	▲28.0
厚木	▲22.1	▲25.2	▲23.1	▲23.8	▲23.1	▲17.5
足柄上・西湘	▲25.5	▲23.4	▲12.4	▲13.7	▲11.8	▲8.8

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比1.9ポイント低下の▲29.6）、川崎地区（同4.6ポイント上昇の▲20.6）、横須賀地区（同2.3ポイント低下の▲27.8）、平塚地区（同11.6ポイント低下の▲32.4）、藤沢地区（同1.6ポイント上昇の▲31.4）、相模原地区（同4.7ポイント上昇の▲26.9）、厚木地区（同0.7ポイント低下の▲23.8）、足柄上・西湘地区（同1.3ポイント低下の▲13.7）となり3地区で上昇し、5地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比2.4ポイント上昇の▲27.2）、川崎地区（同8.1ポイント低下の▲28.7）、横須賀地区（同3.1ポイント上昇の▲24.7）、平塚地区（今期と同じ▲32.4）、藤沢地区（同8.9ポイント上昇の▲22.5）、相模原地区（同1.4ポイント上昇の▲25.5）、厚木地区（同0.7ポイント上昇の▲23.1）、足柄上・西湘地区（同1.9ポイント上昇の▲11.8）となり6地区で上昇し、1地区で今期と同じ、1地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比4.8ポイント上昇の▲24.8）、川崎地区（同6.1ポイント低下の▲26.7）、横須賀地区（同5.3ポイント上昇の▲22.5）、平塚地区（同2.0ポイント上昇の▲30.4）、藤沢地区（同11.2ポイント上昇の▲20.2）、相模原地区（同1.1ポイント低下の▲28.0）、厚木地区（同6.3ポイント上昇の▲17.5）、足柄上・西湘地区（同4.9ポイント上昇の▲8.8）となり6地区で上昇し、2地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)

(Kanagawa Industrial Promotion Center)

総務部 企画広報課 木村

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和6年1月～3月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		343	125	108	223	68	135	534	1,002
業況判断	現在の業況	▲31.6	▲2.4	▲34.3	▲41.4	0.0	▲16.4	▲28.4	▲26.3
	3ヶ月後の業況	▲25.6	▲10.5	▲34.0	▲38.9	0.0	▲19.8	▲28.1	▲25.0
	半年後の業況	▲19.0	▲17.9	▲24.8	▲38.6	0.0	▲20.6	▲26.4	▲22.8
経営状況	売上	▲24.6	▲6.4	▲25.9	▲30.2	4.4	▲14.8	▲21.0	▲20.4
	採算	▲28.9	▲26.4	▲27.8	▲41.0	▲22.4	▲25.4	▲32.0	▲30.2
	引き合い/客数	▲15.2	▲2.4	▲16.7	▲40.5	4.5	▲14.4	▲23.5	▲18.0
	単価	3.5	16.0	2.8	▲20.9	9.1	3.0	▲6.3	▲0.1
	仕入価格	▲52.8	▲66.4	▲67.6	▲68.3	▲85.1	▲57.4	▲67.6	▲62.4
	資金繰り	▲24.4	▲12.0	▲22.4	▲29.1	▲25.8	▲21.6	▲25.4	▲23.4
	残業	▲17.8	▲6.5	▲21.3	▲12.0	▲10.6	▲17.6	▲15.2	▲15.0
	設備稼働	▲17.6	▲5.0	—	—	—	—	—	▲14.3
前期経営実績	売上水準	▲17.3	2.4	▲13.9	▲27.4	17.6	▲12.7	▲15.2	▲13.7
	利益水準	0.3	6.5	14.8	▲16.9	▲1.5	2.2	▲3.6	▲1.0
	在庫	11.3	▲0.9	15.0	8.8	▲2.9	▲8.9	4.3	6.1
	投資	▲6.2	▲2.5	▲12.1	▲15.3	▲8.8	▲7.9	▲12.0	▲8.8
	雇用状況	▲25.1	▲46.3	▲24.1	▲20.5	▲40.3	▲38.6	▲28.4	▲29.5

参考<前回調査> 景気動向調査 (令和5年10月～12月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		353	121	105	222	65	138	530	1,004
業況判断	現在の業況	▲24.9	▲0.8	▲32.0	▲43.0	▲9.2	▲21.2	▲31.0	▲25.3
	3ヶ月後の業況	▲24.4	▲6.8	▲42.7	▲44.0	▲6.3	▲21.2	▲33.1	▲26.9
	半年後の業況	▲23.4	▲17.9	▲37.3	▲45.4	▲6.3	▲22.8	▲33.0	▲27.8
経営状況	売上	▲8.5	3.3	▲11.4	▲19.5	20.0	0.0	▲7.9	▲6.8
	採算	▲21.9	▲18.3	▲26.7	▲36.2	▲29.2	▲20.6	▲29.4	▲25.5
	引き合い/客数	▲7.2	▲0.8	▲11.5	▲39.1	12.3	▲9.4	▲19.5	▲13.0
	単価	13.4	12.7	2.9	▲10.1	6.2	5.1	▲1.5	5.4
	仕入価格	▲62.5	▲69.2	▲65.4	▲73.6	▲90.8	▲68.9	▲72.9	▲68.8
	資金繰り	▲24.4	▲9.1	▲16.3	▲28.8	▲36.9	▲16.9	▲24.2	▲22.5
	残業	▲8.5	▲10.9	▲9.5	▲9.7	▲7.9	▲9.5	▲9.4	▲9.3
	設備稼働	▲12.3	▲2.6	—	—	—	—	—	▲9.9
前期経営実績	売上水準	▲23.3	▲3.3	▲21.9	▲35.5	▲12.3	▲15.2	▲24.6	▲21.6
	利益水準	▲4.5	5.9	5.8	▲26.4	▲33.8	0.0	▲14.0	▲8.3
	在庫	9.5	▲5.4	14.9	0.5	1.6	▲13.3	0.0	2.8
	投資	▲10.2	▲8.6	▲6.9	▲13.5	▲6.3	▲5.3	▲9.2	▲9.5
	雇用状況	▲21.6	▲48.8	▲19.4	▲24.3	▲47.7	▲38.7	▲30.1	▲29.3

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		186	157	64	61	306	228	556	446
業況判断	現在の業況	▲29.7	▲33.8	▲3.1	▲1.7	▲20.4	▲39.2	▲21.5	▲32.2
	3ヶ月後の業況	▲23.7	▲27.9	1.6	▲23.0	▲19.5	▲39.8	▲18.5	▲33.3
	半年後の業況	▲17.4	▲21.1	▲6.3	▲30.0	▲18.7	▲36.7	▲16.8	▲30.3
経営状況	売上	▲18.3	▲32.1	▲1.6	▲11.5	▲10.5	▲35.2	▲12.1	▲30.9
	採算	▲24.7	▲33.8	▲28.1	▲24.6	▲25.7	▲40.5	▲25.6	▲36.0
	引き合い/客数	▲12.4	▲18.6	6.3	▲11.5	▲11.3	▲39.8	▲9.6	▲28.4
	単価	8.1	▲1.9	17.2	14.8	2.7	▲18.1	6.2	▲7.9
	仕入価格	▲49.2	▲57.1	▲65.6	▲67.2	▲63.3	▲73.3	▲58.8	▲66.7
	資金繰り	▲19.4	▲30.5	▲6.3	▲18.0	▲20.5	▲32.0	▲18.5	▲29.5
	残業	▲13.4	▲23.1	▲7.8	▲5.0	▲12.4	▲18.8	▲12.2	▲18.5
	設備稼働	▲14.1	▲21.8	▲9.4	0.0	—	—	▲12.9	▲16.1
前期経営実績	売上水準	▲10.8	▲24.8	0.0	5.1	▲7.5	▲25.4	▲7.8	▲21.2
	利益水準	8.1	▲9.0	12.5	0.0	7.9	▲19.1	8.5	▲13.0
	在庫	17.4	3.9	▲4.8	3.8	5.1	3.2	8.1	3.5
	投資	▲4.3	▲8.6	▲3.1	▲1.8	▲10.7	▲13.8	▲7.7	▲10.4
	雇用状況	▲26.3	▲23.5	▲50.0	▲42.4	▲35.6	▲18.3	▲34.2	▲23.4

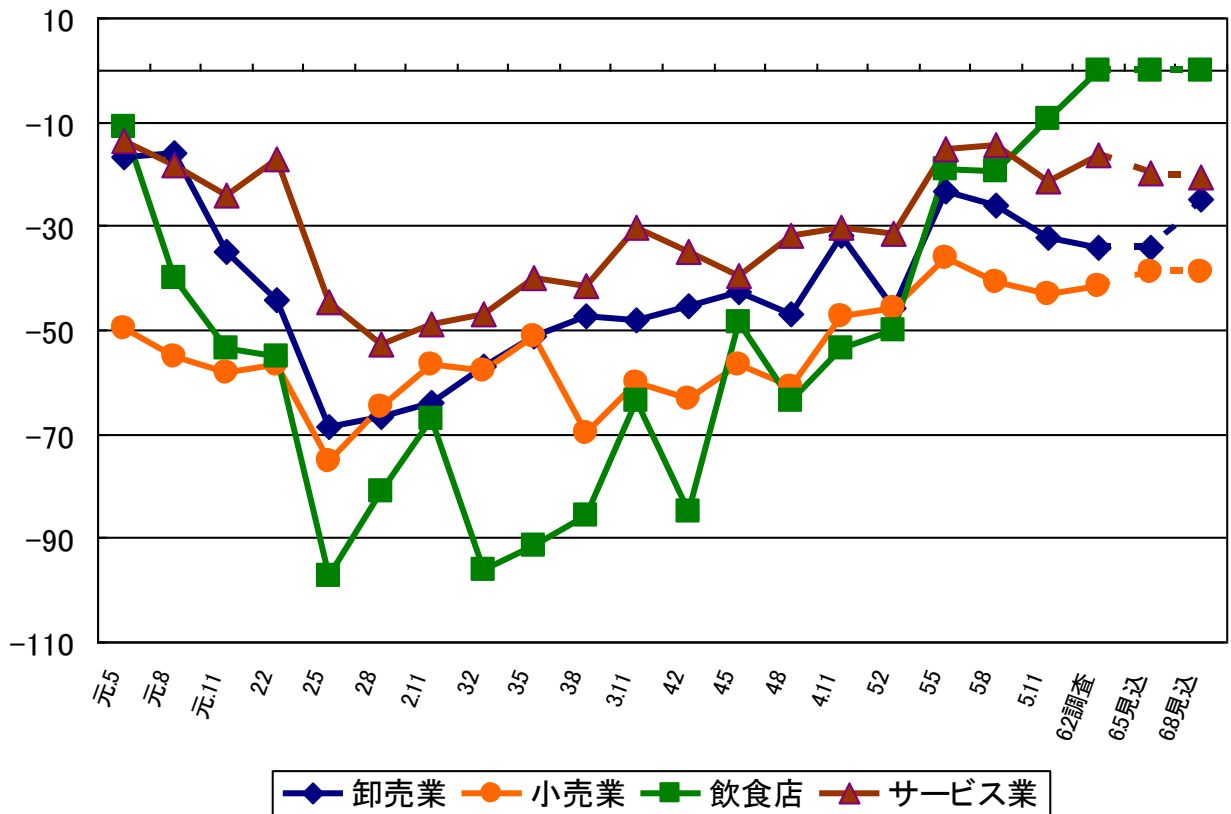
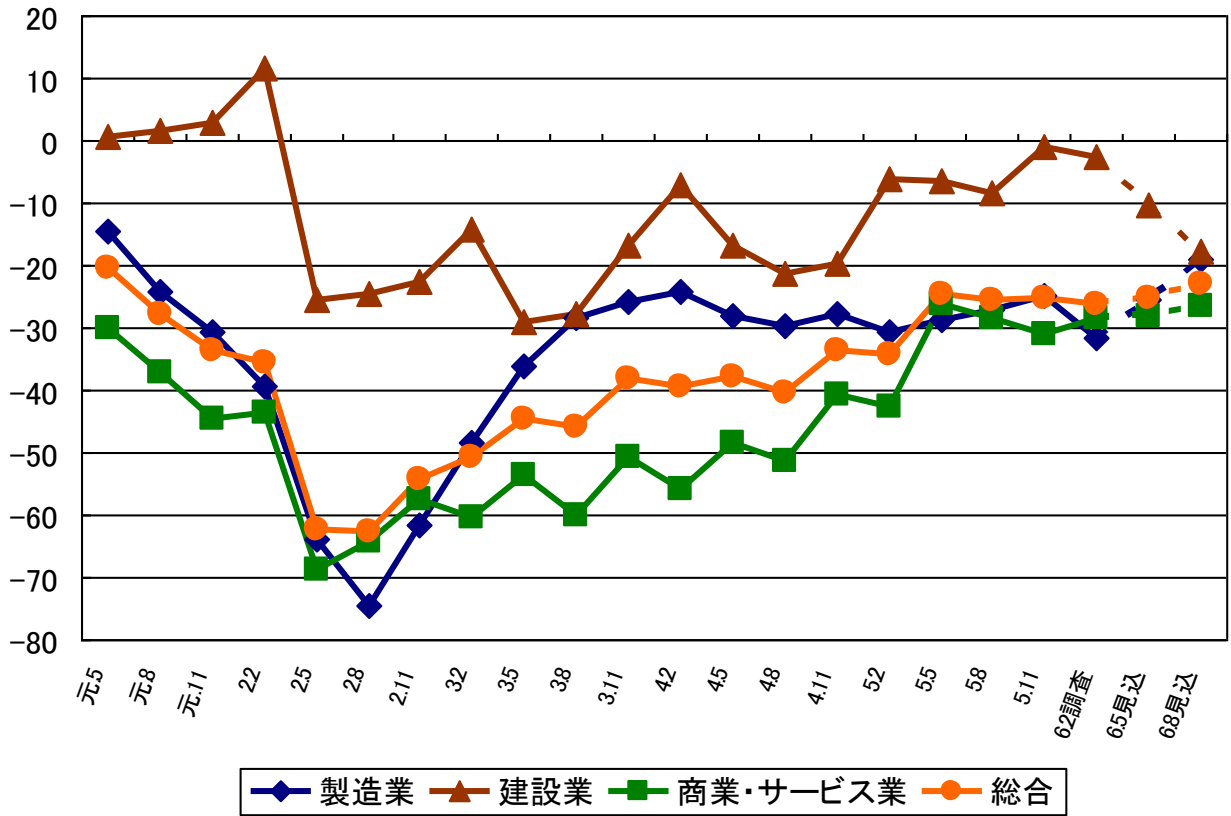
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		277	126	91	102	105	94	105	102	1,002
業況判断	現在の業況	▲29.6	▲20.6	▲27.8	▲32.4	▲31.4	▲26.9	▲23.8	▲13.7	▲26.3
	3ヶ月後の業況	▲27.2	▲28.7	▲24.7	▲32.4	▲22.5	▲25.5	▲23.1	▲11.8	▲25.0
	半年後の業況	▲24.8	▲26.7	▲22.5	▲30.4	▲20.2	▲28.0	▲17.5	▲8.8	▲22.8
経営状況	売上	▲17.0	▲12.7	▲24.2	▲27.5	▲24.8	▲24.5	▲24.8	▲15.8	▲20.4
	採算	▲30.4	▲30.4	▲24.4	▲33.3	▲29.5	▲31.9	▲32.4	▲28.4	▲30.2
	引き合い/客数	▲17.2	▲21.0	▲27.8	▲10.9	▲16.2	▲17.0	▲19.0	▲16.8	▲18.0
	単価	▲1.1	8.1	▲3.4	▲5.0	5.9	0.0	▲4.8	▲1.0	▲0.1
	仕入価格	▲62.5	▲62.1	▲65.9	▲57.4	▲70.5	▲57.0	▲56.7	▲66.3	▲62.4
	資金繰り	▲20.7	▲20.8	▲31.1	▲24.8	▲17.3	▲29.3	▲22.1	▲28.0	▲23.4
	残業	▲16.8	▲1.6	▲22.5	▲18.0	▲12.4	▲15.4	▲17.3	▲17.0	▲15.0
	設備稼働	▲18.0	1.7	▲5.6	▲15.6	▲27.9	▲23.5	▲12.5	▲9.5	▲14.3
前期経営実績	売上水準	▲17.8	▲12.0	▲23.3	▲12.9	▲13.3	▲9.6	▲14.3	▲1.0	▲13.7
	利益水準	▲4.0	6.5	▲20.2	▲1.0	4.8	4.3	3.8	▲1.0	▲1.0
	在庫	5.0	14.0	1.1	4.1	1.0	16.1	4.9	3.0	6.1
	投資	▲11.3	▲7.4	3.4	▲13.5	▲17.1	▲6.5	▲2.9	▲9.9	▲8.8
	雇用状況	▲29.3	▲31.5	▲31.4	▲33.0	▲31.1	▲29.0	▲26.9	▲23.8	▲29.5

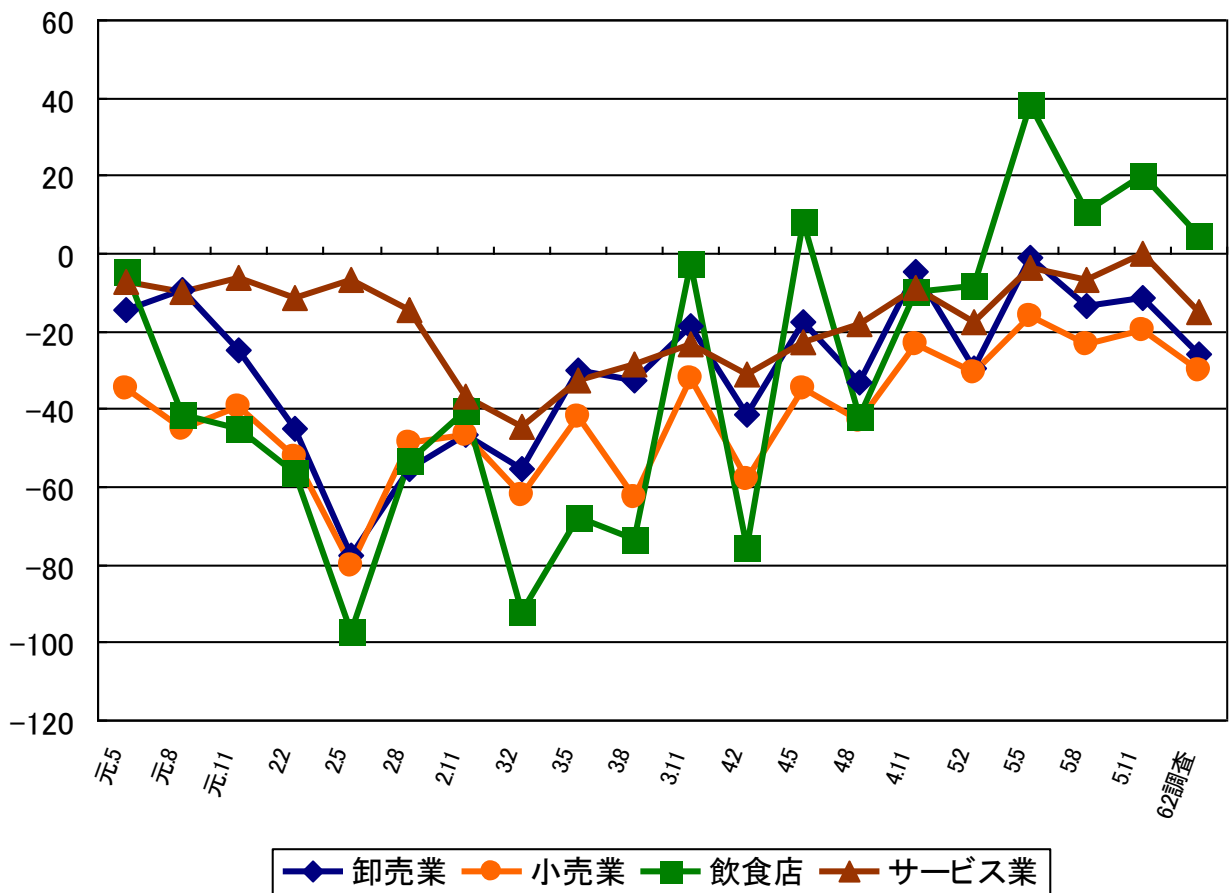
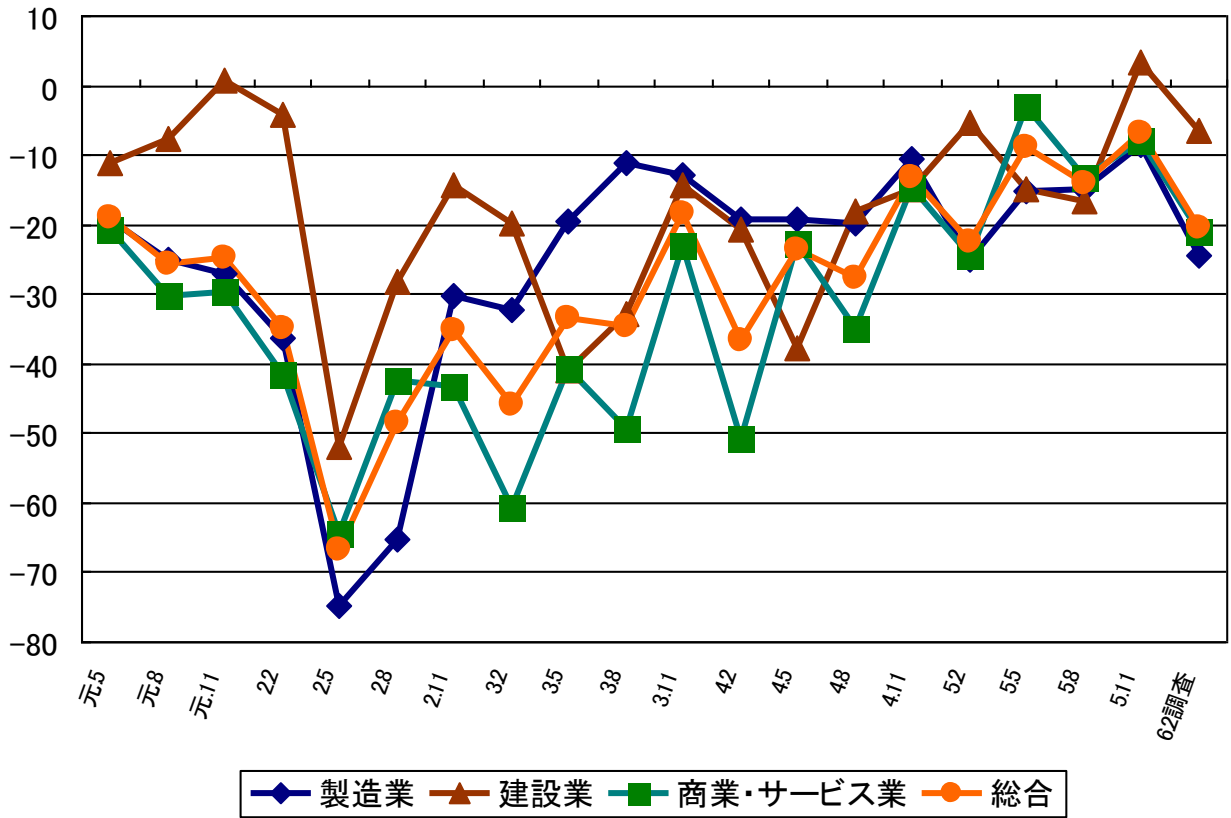
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		88	83	51	121	343
業況判断	現在の業況	▲29.5	▲22.9	▲30.0	▲39.7	▲31.6
	3ヶ月後の業況	▲20.7	▲19.3	▲33.3	▲30.3	▲25.6
	半年後の業況	▲20.0	▲7.2	▲25.5	▲23.9	▲19.0
経営状況	売上	▲25.0	▲12.0	▲27.5	▲31.7	▲24.6
	採算	▲20.5	▲15.7	▲33.3	▲42.1	▲28.9
	引き合い/客数	▲23.9	2.4	▲24.0	▲17.5	▲15.2
	単価	2.3	15.9	0.0	▲2.5	3.5
	仕入価格	▲48.9	▲52.4	▲50.0	▲57.0	▲52.8
	資金繰り	▲20.9	▲14.5	▲20.0	▲35.5	▲24.4
	残業	▲18.2	▲13.3	▲14.0	▲22.3	▲17.8
	設備稼働	▲14.9	▲7.2	▲26.0	▲23.1	▲17.6
前期経営実績	売上水準	▲12.6	▲12.0	▲9.8	▲27.3	▲17.3
	利益水準	5.7	7.3	▲2.0	▲7.4	0.3
	在庫	4.6	15.9	14.6	11.8	11.3
	投資	▲11.4	6.2	▲10.2	▲9.2	▲6.2
	雇用状況	▲31.8	▲19.5	▲26.5	▲23.3	▲25.1

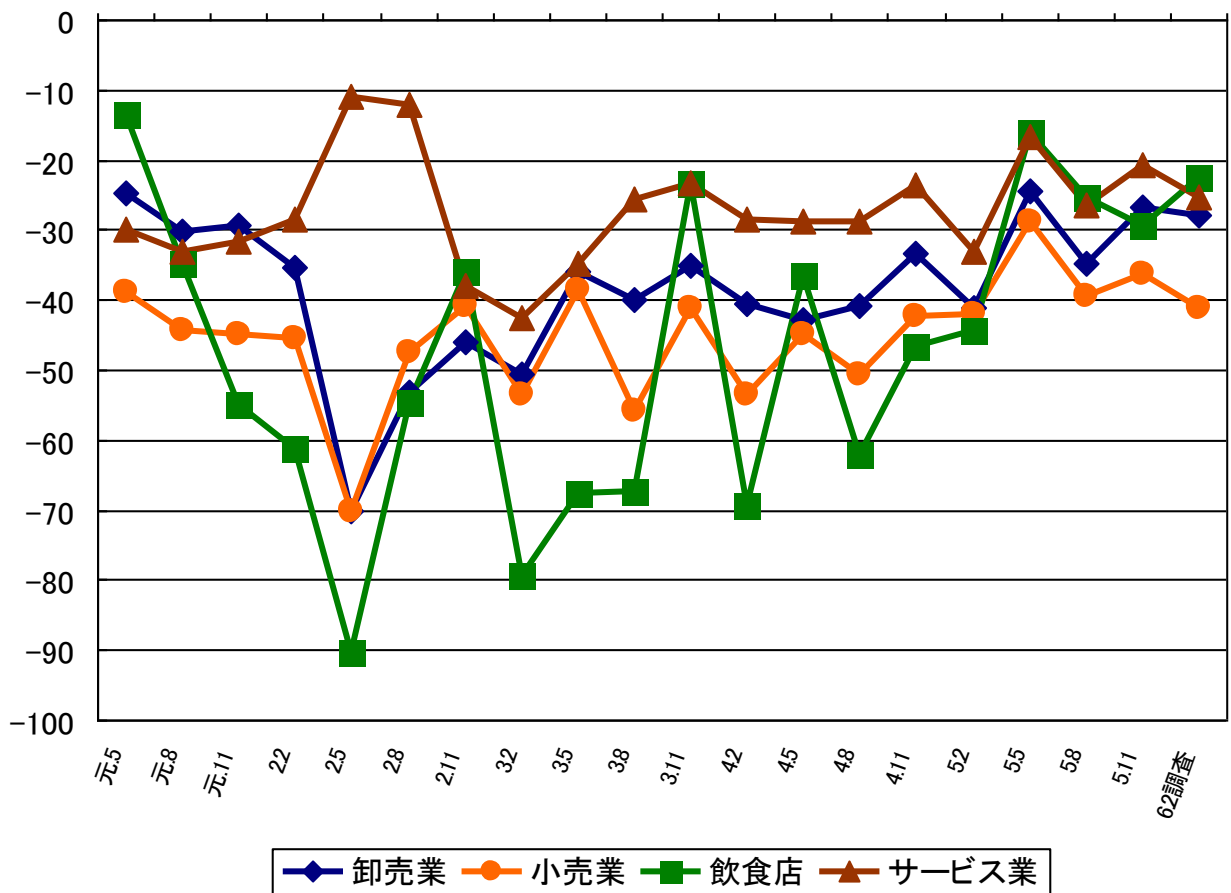
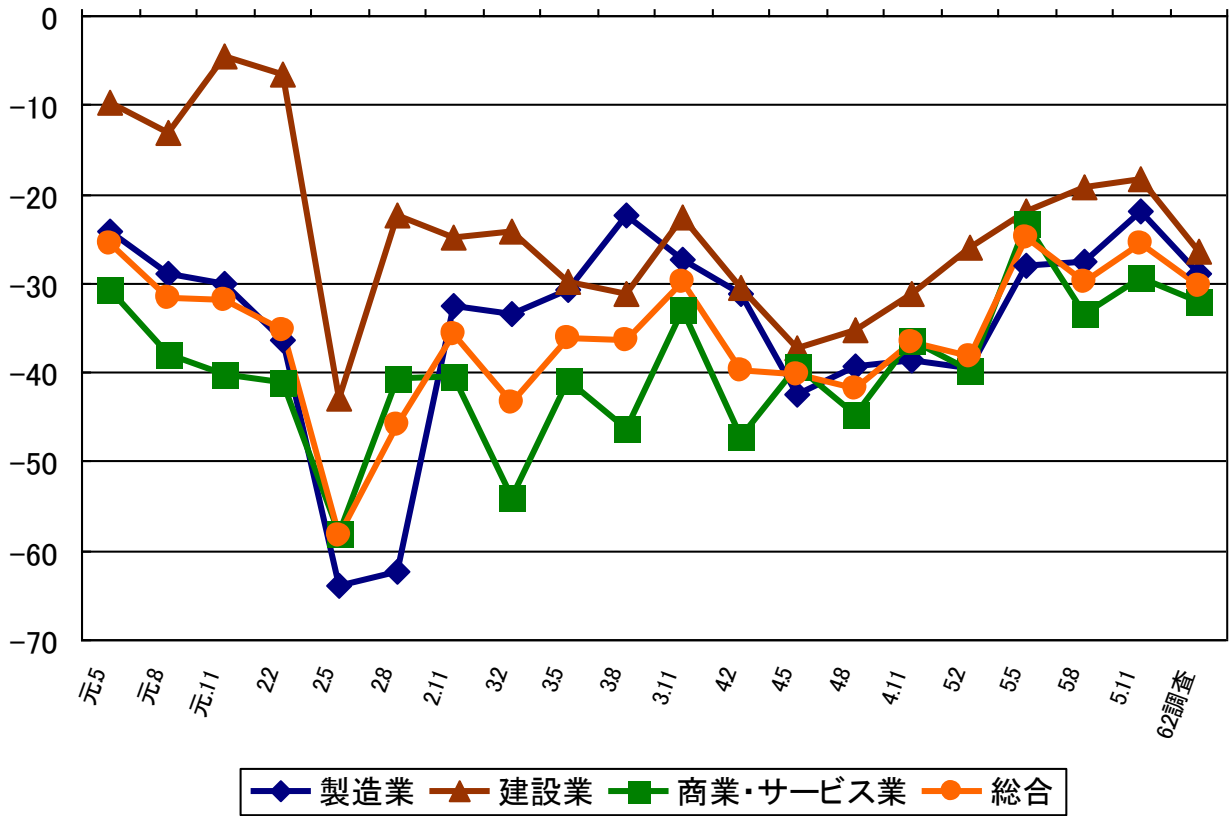
業況DIの推移



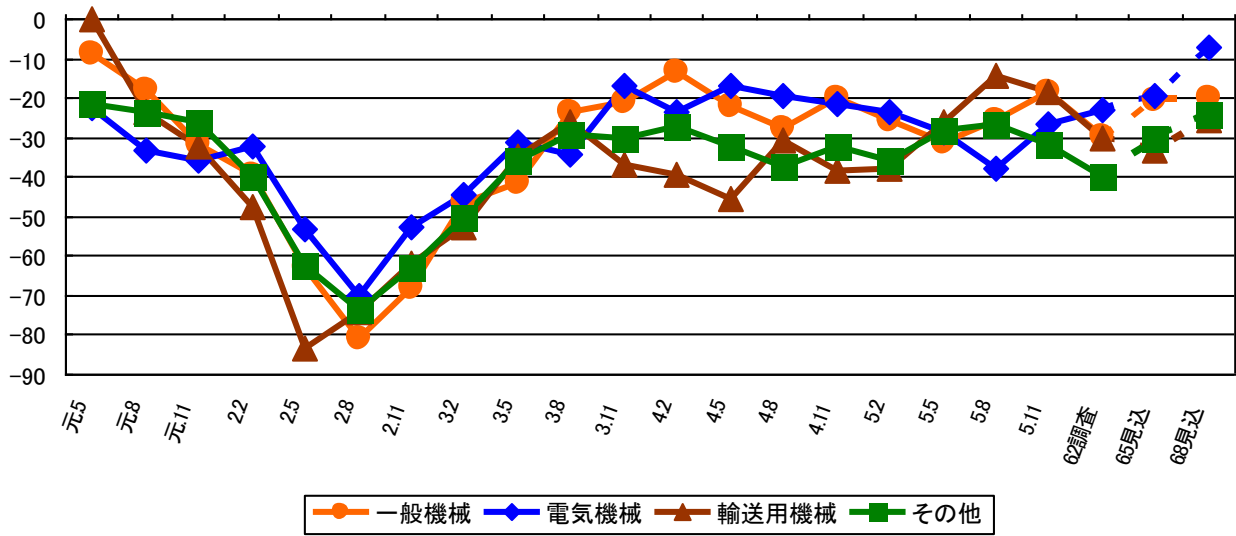
売上DIの推移



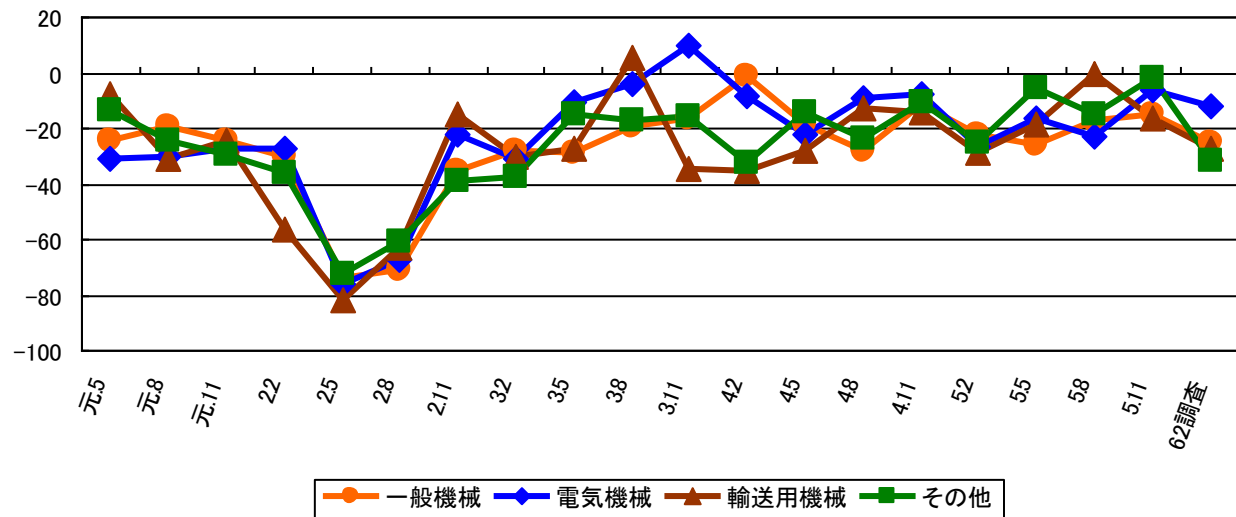
採算DIの推移



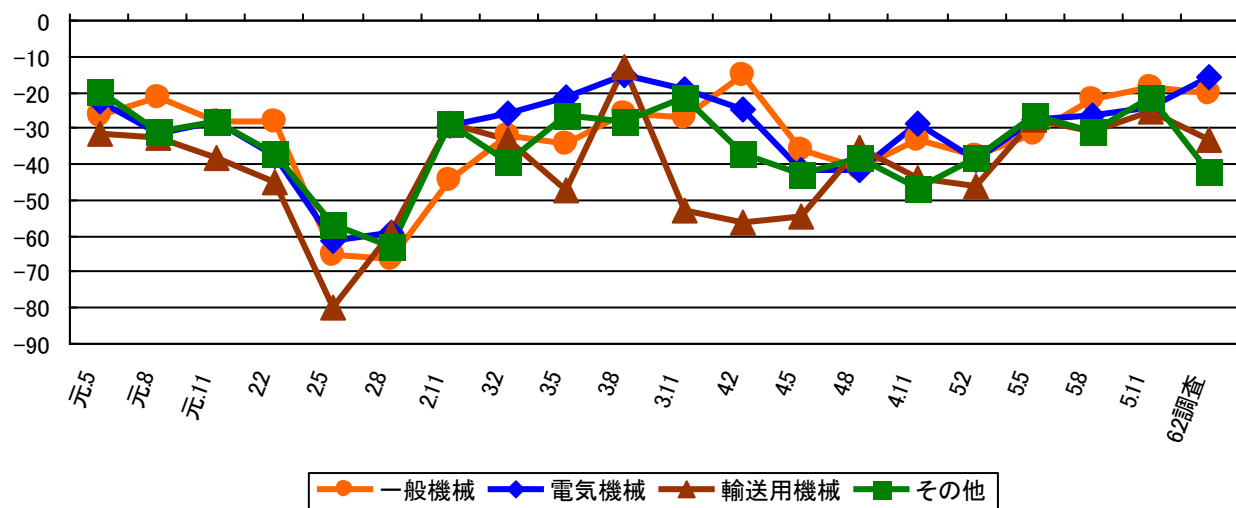
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「半導体業界は当面厳しい状況です。」
「昨年の秋以降から悪くなっています。しかも相手先のほとんどすべてが、良くないです。」
「業界全体の動向として、回復が見えない状況の中、また電気代が上がる。大きなインパクトとなる。」
「働き方改革を推進しているのですが、作業効率の改善化が進まず、生産能力が落ちて、業績が悪化しています。」
「物流費、原材料、大豆価格、人件費の全てが高騰。人手不足も不安となります。」
「原材料・光熱費等の値上がりが続き、利益確保が難しい。」
「コロナ、半導体の影響により、来年までは不調。」
「関連業界全体の動きは鈍い状況だが、特定の顧客から大口受注があり、持ち直した。半導体業界の本格回復は、夏以降と見込んでいる。」
「本格的な業績の回復には、3か月～6か月程度、時間を要する見込み。」
「中国経済の停滞の影響により、仕事量が思わしくありませんでした。まだまだ不透明な先行きのため、柔軟に対応できる組織作りを目指しております。」
「最低賃金の上昇や短時間パート社員の社会保険料の負担増等の人件費の高騰に加えて、材料費、運送費等の高騰で、利益が出づらい状況になりつつある。また、取引先への価格転嫁も随時進めていかなければならない。」
「2月までは受注はあるが、半導体関連が見通せないので、半年後は不透明。」
「仕入れ原料、材料、インフラ費などの上昇があるが、売価に転嫁できていない。」
「12月、1月は、受注減により不調。2月から新規事業が増え、少し明るい見通しになっている。」
「諸仕入の値上がり、人件費アップ、売値変更難しい。」
「原材料の値上げや、光熱費等の高騰が続き、利益確保が難しい。取引先からの依頼も継続性がなくなっている。」
「発注件数が減っている。仕入(材料)価格は安くなっている。」

<建設業>

「官庁工事の受注ができていない。」
「人手不足で工事対応が厳しくなる。工事の遅れは、資金繰りに影響するので、心配である。」
「令和6年4月からの働き方改革により休日を増やさなければいけない。実質賃金の大幅増となり生産も低くなり、会社負担が大きくなる。赤字になる要素が大きい。」
「人員不足。全然人が来ません。」
「受注がないので、自宅作業場を解体して、アパートの新築を考えているが、なかなか借入が難しいので悩んでいる。」
「建売、賃貸は安定。ビジネスホテルは好調。」
「大型現場が一服し、来年夏まで工事量は少ない。」
「見積りの積算ソフトを導入したので、受注につながれば良いです。」
「窓改修などで国からの補助金が出ている為、受注になりやすい。」
「人員不足により作業効率が落ちている。」

<卸売業>

「円安で仕入価格がどんどん上がっている。」
「明らかに需要が減っている。業界内の予想も、夏までの需要がよくない。」
「輸入が多く為替に左右されるので、今後、円高傾向になっていかないと、より賃上げが厳しい状況になってしまいます。」
「キャッシュレスは、お客様は楽ですが、入金処理が煩雑。仕入れの支払いもキャッシュレスだと嬉しいが、未だ現金なので大変です。身体が、元気うちに、廃業の準備が必要かと思う。」
「売上は横ばいですが、円安の影響により仕入高が上昇しており、値上がり分を販売価格に転嫁するのが難しい状況です。過度な値上げは買い控えにつながり、見極めが難しいです。」
「円安が長引いているため、慢性的に利益確保ができていない。客単価も徐々に減少している。値上げに対応できない。顧客の足が遠のいている。」
「缶飲料関係では、寒さではホット商品限定物しか売れず、天候に左右されています。」
「人手不足が最大の問題。4月からの運送業、建設業の労働時間の問題で、さらに悪くなる。」
「原材料、運賃、人件費の値上げで仕入価格が高くなり、利益率が悪くなっている。」
「円安が長引く原因で、輸入コストが上がり、回転資金を圧迫しております。」
「中国経済の状況が好調になれば景気が良くなっていくと思える。輸出次第です。」

調査回答企業からのコメント(一部)

<小売業>

「インボイスでお客が来なくなった。」
「売上、消費は変わらないが、支出が大きくなっている。」
「物価上昇により、高齢者の衣類等の買い控え。食費等の必要経費に支出が限られる。」
「天候の商売ですので、天気次第です。」
「売上は物価高騰の影響で、コロナ時より悪い。お金を使わなくなっている。」
「季節変動の多い業種ですので、特に寒・暖に左右される。」
「売上数字だけを見ると上がっているようだが、価格が全体的に20%UPしているので変わらない。」
「物流問題、円安、原材料費の高騰など、今年に入ってから商品の値上げの要因があり、心配である。」
「2023年度上期はコロナからの解放で皆さん外出（旅行やイベント等）し出したことから来店客数激減し、コロナ禍よりも厳しい状況に陥りました。下期特に年末商戦では久しぶりにコロナ以前の状況に戻り通年では昨対を超える売り上げとなりました。」
「価格競争が厳しく、ついていけない。また、販売手数料増加で、さらに収益が厳しい。」
「顧客の設備投資が順調に推移しており、安定している。」
「売上が見込める時期で健闘はしたが赤字は変わらず。店舗の客数はここ4年右肩下がり。キャッシュレス決済の普及により利益率は下がり、仕入先の新規開拓や顧客の目を引く新たな仕掛けが必要と考えている。」
「新年になって一層悪い。」
「仕入れの売上が、今後の経営状況を左右する。」
「店舗立地が悪い為、今更ですが、通信販売で売上アップを期待したいです。」
「店舗数が増えたため、売上、利益共に増加。人手不足がボトルネックになっており、求人手法を変更。」
「価格改定が一部を除いて順調に推移している。」
「いまだに学級閉鎖や学年閉鎖も収まらず、悪天候時には、給食中止等あり。まだまだ物価上昇も止まりません。イベント等、コロナ前に戻りつつありますが、いろいろな事が急変するのが心配です。」

<飲食店>

「4年ぶりに新年会会合が増えている。ただし、原価仕入単価が高くなって苦しい。」
「コロナが明けて少しずつ好調になりつつあります。世間様のムードも良い方向に向いていると思います。」
「忘年会あり。コロナの後、久しぶりの宴会であった。あと半年、様子を見る必要あり。」
「アルバイトが見つからず、営業日を減らしたり、営業時間を短くしたりで、好調に向かっていく要素が見つからない。」
「材料費値上げ、人手不足で困っている。」
「昨年12月は、客数、売上ともに増えたが、肉の仕入れが高く、利益が上がらない。今後、肉の仕入れが値上がりすれば赤字となる。」
「リフォーム作業をしていたので、1月中頃～2月初旬にかけて売上は無かった。今後の団体業のお客様に期待しています。」
「仕入価格がまだ上がる見込み。」
「売上は好調なのに、利益が少ない。食材梱包品値上げのため。」
「インバウンドの増加により、V字回復中。」
「コロナ以前の水準以上に客数が増えている。」
「人材費、仕入、光熱費などの値上げを、売価に転嫁できないので、あまり良くない。」
「令和5年12月は、コロナ前に戻る売上となりました。1、2月は営業日数も少なく、売上減が通例です。」

<サービス業>

「諸物価値上がりの中、顧客の中に節約意識が強く、平均客単価が落ちている。」
「宿泊関連の仕事は、コロナ前の水準に戻った感があります。一般の仕事は普通です。」
「車を販売しても、間に合わなくて期間がかかる。」
「お客様の景気に左右されます。お客様次第です。」
「光熱費や人件費、資材費等全て上がってどこでストップしてくれるのか不安、かといって単価をあげる事もできず…。」
「コロナ過も収まり普通にもどってきた。しかし光熱費等の地味な高騰、仕入れの高騰で利益率は悪くなりがち。多少値上げはしたがまだ完全には価格転嫁できてはいない。去年は自動車業界の不正の話題がやたら多かったため、お客様への説明等が増え時間がかなりとられるようになった。」
「人員不足が慢性化しており、綱渡りの状況が続いている。」
「去年は、タイムリーに値上げを実施できたことで、売上・利益とも良好だったが、今年は、昨年のような好調は続かないと考えている。上昇するコストにどう対応するかがポイントとなる。」
「顧客の案件数が減少しており、例年の同時期と比べても下がっている。」